

2012年11月6日

東日本大震災の体験メッセージ集「真の気づき・教訓」を発行 ～「家族を守る」ために役立つ情報をホームページで公開～

リコージャパン株式会社(社長執行役員:佐藤邦彦)は、東日本大震災を体験した東北地区のリコーグループ社員から寄せられた体験メッセージ集「真の気づき・教訓」を、リコージャパンのホームページを通じて公開します。(URL: <http://www.ricoh-japan.co.jp/about/csr/fukkou/kiduki.pdf>)

「真の気づき・教訓」は、リコージャパンとリコーテクノシステムズ株式会社、三愛ロジスティクス株式会社[東部]、リコービジネスエキスパート株式会社の東北地区の社員から寄せられた207件の体験メッセージの中から、次の災害に備え、「家族を守る」という視点で役に立つ情報をまとめたものです。「震災時は大混乱。覚えておこう5段階対応」「家族が分かるように家に貼り紙をして避難先を知らせる」「津波は何度もやってくる。警報が解除されるまでは絶対、家に戻るな」「家族会議で合流する場所を決めておく」など、東北地区の社員一人ひとりが実体験のなかで気づいたことを35個の教訓としてまとめ、社員からのメッセージとともに紹介しています。

本冊子は、「東日本大震災を被災した際に、全国のグループ会社および社員からさまざまな支援があったことに対して、何らかの恩返しをしたい」という社員の声を受けて企画したものです。事業継続はまず「社員および社員の家族が守られてこそ」という視点から、本冊子をリコーグループの社員および社員の家族向けに配布したところ、リコーグループ以外の方にもお渡ししたいという声寄せられたため、ホームページで公開することにしました。

リコージャパンでは、震災体験メッセージ集「真の気づき・教訓」が災害に対する準備に役立ち、万一、次の災害が起きた場合にも被害が最小限にとどめられ、地域社会に貢献できることを願っています。



リコージャパン株式会社 <http://www.ricoh-japan.co.jp/>

お問い合わせ先 : 経営戦略センター コーポレートコミュニケーショングループ
TEL : 03-6278-6510 E-mail : ccd@ricoh-japan.co.jp

目次		
地震だ！ 30秒	自分自身を守る	ページ
教訓1	震災時は大震災。覚えておこう5段階対応！	P.10
教訓2	机の下が安全地帯！	P.10
教訓3	非常口、窓ガラス位置、建物の構造に注意しろ！	P.10
教訓4	自宅にいたら、トイレや風呂場へ逃げろ！	P.10
教訓5	揺れた避難場所は自家用車！	P.10
揺れが止まった！ 3分	安全な場所に避難する	ページ
教訓6	津波地域にいる時は、高台を確認しておく！	P.11
教訓7	津波が見えなくても一旦高いところへ逃げろ！	P.11
教訓8	「津波でんでんこ！」「命でんでんこ！」	P.12

地震だ！ 発生30秒 **自分自身を守る**

地震はいつ起こるか分かりません。普段から地震が起きたときのことを想定しておきましょう。

教訓1 震災時は大震災。覚えておこう5段階対応！
 STEP1 地震だ！ 30秒 自分自身を守る
 STEP2 揺れが止まった！ 3分 安全な場所に避難する
 STEP3 避難するか！ 3時間 家族の安全を確認する
 STEP4 今すぐ欲しい！ 30時間 家族と合流する
 STEP5 復讐が大切！ 3日間 日常生活が戻るまで帰省する

教訓2 机の下が安全地帯！
 揺れが大きくなり壁内のガラスが割れ、キャビネットが倒れ事務所が倒壊するのではないかと恐怖を感じました。揺れが収まり外へ出ると落ちた瓦が敷き詰まっていた。もし外へ逃げたら…危険でしたがもしも…
身を守る 判断としてよかつた事は、机の下で揺れが収まるまでじっとしていたことだと思います。 <Aさんの場合>

教訓3 非常口や窓ガラスの位置、建物の構造に注意しろ！
教訓4 自宅にいたら、トイレや風呂場へ逃げろ！
 建物が倒れそうなら逃げろ。ガラスが砕け、瓦が落下してきました。この経験から、非常口の場所などを知っておくようになりました。又すぐ外に飛び出すはずが壁を叩き破る事が出来ず大事故と恐れられました。自宅にいた場合は、倒れるものがない、狭くて柱の多い場所(トイレや風呂場)への避難は有効です。ただし逃げこめられないように、ドアは絶対に開かないようにしておくとが大事です。 <Bさんの場合>

教訓5 揺れた避難場所は自家用車！
 高齢の母は自宅が地震にありました。余震が来る中の中は危ないので、揺れが一息ついた時に自宅の車へ避難しました。倒れてくるものがない車の中は安全でした。 <Cさんの場合>

P.10

今すぐ欲しい！ 30時間	家族と合流する	ページ
教訓18	家族合流で合流する場所を決めておく！	P.18
教訓19	家族が分かるように家に知り難い避難先を知らせる！	P.18-P.20
教訓20	子供を連れに行く人を決めておく！	P.18
教訓21	勤務先から自宅までの帰宅ルートを確認しておく！	P.18-P.21
教訓22	災害対応型自動販売機を活用する！	P.22-P.23
教訓23	災害時帰宅支援ステーションを活用する！	P.22-P.24
復讐が大切！ 3日間	日常生活が戻るまで帰省する	ページ
教訓24	1日に必要な食！	P.25
教訓25	万一のことを考え、普段から食料は多めに買っておく！	P.25

揺れが止まった！ 発生3分 **安全な場所に避難する**

3階の防災低床である「津波でんでんこ」(津波が来たら取るものも取らず、でんでんばらばらに逃げろ)を守ったひとは今回の地震でも多くの方が助かっています。

教訓8 「津波でんでんこ！」「命でんでんこ！」
 いずれの場に立った場合、肉體にかまわず逃げることはできませんが、必ず肉體と一緒のとき災害が来るとは限りません。その時こそ自分が「でんでんこ」の心を持っていることです。 <Fさんの場合>

でんでんこ

教訓9 指定避難場所が安全とは限らない！
教訓10 津波は河川を避けて来る。早く遠くに離れる！
 とにかく高台や高いビルへ車は置いて徒歩で逃げるのが最優先です。指定避難場所が絶対安全とは来ませんので土地に詳しい人が指示する場所に避難する方が安全です。
津波対応 津波は河川を避けてくるので、河川には絶対に近づかないようにしよう。 <Gさんの場合>

教訓11 津波は何度もやってくる。警報が解除されるまでは絶対、家に戻るな！
 震源の人に促され、車を置いて避難すると、物凄い音と土煙を立てた津波がやってきて、あっという間に水に囲まれた。あの恐怖は二度と忘れられません。その場に留まった人や必要なものを取りに行った人は犠牲になってしまいました。一度避難したら警報解除するまでは絶対に戻らないことです。 <Hさんの場合>

津波でんでんこ(場所がない)
 場所：津波になるほど、津波は高くなります。
 高台：避難した場所が安全で、津波は高くなります。
 河川：津波は河川を避けて来る。
 河口から進入した津波が、約4mも高くなったという記録もあります。

P.12

リコーグループについて

リコーグループは、オフィス向け画像機器、プロダクションプリントソリューションズ、ドキュメントマネジメントシステム、ITサービスなどを世界200以上の国と地域で提供するグローバル企業です(2012年3月期リコーグループ連結売上は1兆9,034億円)。

人と情報のかかわりの中で新しい価値を生む製品、ソリューション、サービスを中心に、デジタルカメラや産業用の製品など、幅広い分野で事業を展開しています。高い技術力に加え、際立った顧客サービスや持続可能社会の実現への積極的な取り組みが、お客様から高い評価をいただいています。

想像力の結集で、変革を生み出す。リコーグループは、これからも「imagine. change.」でお客様に新しい価値を提供していきます。

より詳しい情報は、下記をご覧ください。

www.ricoh.co.jp/about/